

## 第2章 食育の現状と課題

### 1 食育の現状

近年、ライフスタイルの多様化や新しい生活様式への対応などにより、食を取り巻く環境は大きく変化しています。また、栄養の偏りや不規則な食事等による肥満や生活習慣病の増加、食料自給率の低下、食べ残し等による食品廃棄および食品の安全性への不安など、食に関わる様々な問題が生じています。

食をめぐる環境の変化に対し、国は、平成17年6月に「食育基本法」を施行し、平成18年3月に「食育推進基本計画」を策定して、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために食育を推進してきました。

私たちの体は、食と密接に関わっています。私たち一人ひとりが、食生活や健康を見つめ直し、食に関する知識を習得し、次の時代を担う子どもたちはもとより、妊婦から高齢者まで食育に積極的に取り組むことが求められています。

## 2 第2次計画「計画推進の指標」の達成状況

第2次計画では、食育を積極的に推進するための数値目標として、食育に関する指標を定め、計画の進行管理と評価を行いながら取り組んできました。

これまでの取組における目標値の達成状況については、6項目のうち3項目において改善がみられました。

基本方針				
指標	計画策定時	最終年次 目標値(R2)	実績値(最新)	評価
(1) 健康な心身をつくらう				
肥満傾向にある子どもの割合(小学生)	8.3% (H23年度)	減少傾向	8.8% (R元年度)	△
肥満者の割合(16歳以上) 男性/女性 ※小学生:肥満度20%以上、16歳以上BMI25.0以上の割合 <関連計画・調査:「第2次健康あきた市21」>	22.7%/17.5% (H21年度)		23.5%/22.1% (H28年度)*	△
(2) 食を体験しよう				
都市農村交流人口 ※農業体験交流など、都市農村交流イベントの参加者数 <関連計画・調査:「秋田市農林水産業・農村振興基本計画」>	717人 (H27年度)	900人	2,389人 (R元年度)	◎
(3) 地域の食文化を学ぼう				
学校給食における市内産野菜の供給率(重量ベース) ※学校給食に使用する市内産野菜の重さによる供給割合 <関連計画・調査:「秋田市農林水産業・農村振興基本計画」>	11.8% (H27年度)	24.0%	8.3% (R元年度)	△
(4) 食の安全について知ろう				
アレルギーわいわいげんぎの参加者の満足度 ※食物アレルギー児を持つ保護者に情報交換や仲間づくりの場を提供する講座のアンケート	— (H27年度)	80%	100% (R2年度)	◎
(5) 食育を広げよう				
食育担当指導主事による学校訪問 ※小・中学校における食育の充実を図るため、学校訪問指導とおし指導助言を行う回数 <関連計画・調査:「第二次 秋田市子ども・子育て未来プラン」>	のべ50校 (H27年度)	のべ100校	のべ86校 (R2年度)	○

\* 5年に一度実施する「市民健康意識調査」の数値を元に算出した値。

### [評価の判定]

評価	判定
◎	目標として設定した状態を達成しているもの
○	目標に向けて改善がみられたが、目標として設定した状態には至らなかったもの
△	改善がみられなかったもの

### 3 第2次計画の課題と今後の取組の方向性

#### (1) 健康な心身をつくろう

##### ①肥満傾向にある子どもの割合（小学生）

###### 【これまでの取組と課題】

生活習慣病予防について、保健だよりや掲示物等で情報提供をしたり、学級担任と養護教諭等が連携し、体育や特別活動等で指導したりしています。

また、小児科医師会が行う調査に協力し、肥満度20%以上の児童には学級担任との面談等をとおして、医療機関への受診を勧めています。

###### 【今後の取組の方向性】

生活習慣の改善が図られるよう、学校と家庭が連携して、引き続き学校からのたよりや学校保健委員会等などの機会をとらえて啓発していく必要があります。

##### ②肥満者の割合（16歳以上）

###### 【これまでの取組と課題】

栄養改善学級や女性の健康づくり教室などの開催により、減塩や栄養バランスなどの望ましい食生活に関する知識の普及啓発に努めました。

依然として、ライフスタイルの多様化に伴う栄養バランスの偏り、不規則な食生活による生活習慣病や肥満の増加などが課題となっています。

###### 【今後の取組の方向性】

引き続き、望ましい食生活に関する正しい知識の普及啓発や情報提供に努め、健全な食生活の実践につながる取組を推進していきます。

#### (2) 食を体験しよう

##### ①都市農村交流人口

###### 【これまでの取組と課題】

農山村地域活性化センター「さとぴあ」を拠点として、農家や地域と連携しながら、年間を通じた農業や自然体験などの多様な講座を開催するとともに、

農村の魅力体験ツアーや援農ボランティア等を実施したことにより、都市農村交流の促進が図られました。

今後も内容の充実を図るため、農山村地域の受け入れ態勢の強化を図り、地域が一体となった交流を推進する必要があります。

#### **【今後の取組の方向性】**

農林業者や関係団体等と連携しながら、都市農村交流の促進に取り組み、関係人口の増加につなげていきます。

### **(3) 地域の食文化を学ぼう**

#### **①学校給食における市内産野菜の供給率（重量ベース）**

##### **【これまでの取組と課題】**

栄養教諭を対象とした地元食材の理解を深める研修会を開催し、学校給食での地元食材の使用促進に努めました。また、学校給食啓発のリーフレット作成を行い、市内の小中学生を対象に地元食材のPRを行いました。

供給率の改善に向けて、生産者と使用者での情報共有の強化や給食で使用する市内産農産物の活用方法について、検討を進める必要があります。

##### **【今後の取組の方向性】**

目標達成に向けて、農産物の種類や時期、生産量等の情報共有を生産者側と使用者側で行い、効率的な利用を目指すほか、農産物の加工品を活用することで、供給率の改善に取り組みます。

### **(4) 食の安全について知ろう**

#### **①アレルギーわいわいだんぎの参加者の満足度**

##### **【これまでの取組と課題】**

アレルギー児を持つ保育士の体験に基づく情報提供により、参加者の日々の苦労や悩み、不安などの解消を図りました。また、毎日の食事作りや保育所、小学校での給食、友達との関係や病院などに関して活発な情報交換が行われ、同じ悩みを持つ仲間と交流することで励みになり参加した甲斐があったと、ど

の参加者からも大変喜ばれました。

**【今後の取組の方向性】**

参加者の確保のため、子ども育成課や各公立保育所、子育て交流ひろばなどの窓口にはポスターやチラシを設置し配布することに加え、秋田市ホームページにも情報を掲載するなどして、より広く事業の周知に取り組む必要があります。

**(5) 食育を広げよう**

**①食育担当指導主事による学校訪問**

**【これまでの取組と課題】**

担当指導主事が各校を訪問し、各教科等との関連を図った指導や学校給食を活用した食に関する指導、家庭・地域への効果的な連携のあり方について助言し、各校の食育を推進しました。

**【今後の取組の方向性】**

学校、家庭、地域等が連携・協働した取組を推進するために、指導主事による学校訪問を継続していく必要があります。